

パブリックコメントで出された主な意見と対応方針について（案）

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
全体		デジタル化について随所に出てくるが、これはあくまでも「手段」であり「目的」ではない。主客が転倒しているものがある。	【答申案修正】 ・デジタル化の推進は、目的ではなく、取組を進めていく上での手段であることから、そのことが明確でない箇所については文章を修正する。
		「自分らしく」という言葉を行政が使うことで、問題が自己責任にすり替えられることを危惧する。事実即して現状を分析することで、新しいビジョンが生まれるはずであり、区民の生活実態をつぶさに調査してから、基本構想を考えるべき。＜外、同趣旨1項目＞ 生活者に密着した基礎自治体として、地域住民サービスをどう確保するかという切実な問題について、地道な姿勢に欠けているため、区民に対するメッセージとはなりえていない。 「羅針盤」であるならば、それにふさわしく杉並区を科学的に分析し、その現実を見据え、そこから杉並区をどうしていくのか。一番大切なのは区民の立場に立ち、区民に寄り添い、区民と共にともに杉並区区政を進めるという姿勢だが、その視点が全く見えない。 具体性に欠ける。どのように具体化していくのかについての区政の関わりも抽象的でわかりにくい。区民が日々感じている暮らしにくさも解消できると思えない。この10年で区民サービスは前進どころか後退している。理念には、自助・共助が強調され、行政としての役割が具体的でない。	・基本構想は、行政運営のもととなる考え方であると同時に、杉並区に関わるすべての人が共有する区の将来を展望する「羅針盤」であり、行政のみの役割を明らかにするものではないことから、答申案の修正は行わない。
		人生100年時代という表現はおかしい。100歳まで生きるひとは何人いるのか。「現役70歳まで時代」等、実情にあった表現にすべき。	・国などにおいても使用されている言葉であることから、答申案の修正は行わない。
		SDGsという国際目標は答申案ではわずかに触れられているが、自治体によっては地元企業に積極的に「宣言」を呼びかけているところもある。杉並区でも共有可能な目標としてSDGsを前面に出してはどうか。 基本構想を区民にわかりやすく伝え、内容を理解してもらい、関心をもってもらえるようにしたほうがよいと思う。 具体的に何が必要で問題なのか、掛け声ばかりでよくわからない。杉並区のこれまでの歴史を考え、地域の連携による、人と人の繋がりの強化の具体的な方針を示すことが大事ではないか。＜外、同趣旨1項目＞ 絵に描いた餅の様に感じた。安全は確実に実行してほしいが、安心は心にある。安心出来る構想を願いたい。 どれも素晴らしく、杉並区がそうなって欲しく、そういうことだと嬉しいと思うが、細かい記載がなく、いつまでに実現、具体化等されるのか分からなかった。 基本構想を共有するとしても、反対意見を持つ区民の人権を強大な権力をもつ行政、その行政と一体となった企業から守られるようにすべき。行政自身が、区立施設のスクラップアンドビルト、必要のない道路拡張の推進、既存緑の破壊など、脱炭素社会への逆行をすすめている。 素晴らしい文言を将来に向けて進めてくれるのか、今まで行っている事は、あまりにもこの文言に逆行しているので耳をうたがう。緑あふれる良好な環境を将来にひきつぐ事を真剣にとりこんでほしい。 これまでおこなわれていた杉並区の行政のあり方に加えて、更にこのたび提案される基本構想を推し進め、住みよい生活を送れるようにされることを願っている。 杉並区に今必要なのは、ひとりひとりの、とくに未来の子供のために、人間としての、豊かな満足感、幸福感、健全な精神だと思う。大企業、一部の人の利益のための、大型開発や、新たな高層ビル、道路建設等、住民にとってはいいことない。気候変動、人口の減少など 何十年後の、日本を想像して、住民主導の街づくりを考えていただきたい。	・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。
		メニューが多く、美しく響きの良い表題に飾られていて、メリハリを感じる点が少ない。区にはこんな課題があり、3つの基本理念が大切なので、各分野の担うべき将来像はそのどれかに組み込まれて努力するというニュアンスが欲しい。＜外、同趣旨1項目＞ 杉並区らしさがなく、他自治体の話としてもそのまま通じるように感じる。 全て、理想的、平均的、どこの区でも同じようだと思う。特色、或いは今までにない画期的、チャレンジ的な要素がないのが残念である。 基本構想に数値的目標がないのは、問題ではないのか。	・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
はじめに		「…実施してきた」とあるが、問題は、成果である。簡潔に示されたい。 『①何が最善の選択であるかを熟考し、②私たち区民と区が手を携えながら③制度や規制の壁を果敢に挑み・・・』とあるが、この①②は全くのウソである。どんなに区民が反対しても勝手に押し進め、強引に進めた施策についてもはや後の祭りのこの基本構想は、逆方向の美文でしかない。	・被災地支援の取組や今般のコロナ対策など、新たな試みにチャレンジし、様々な課題を乗り越えてきたと受け止めていることから、答申案の修正は行わない。
		「はじめに」は、この10年間の総括をしてほしい。次の10年が、前の10年と杉並区の状況が突然変化するわけではないので、その延長線上でこれから何が一番大きく変化するかということがあれば、人口動態や年齢変化などのデータが欲しい。	・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。
第1 基本構想策定の背景	(2) 基本構想の期間設定	今後10年が計画（構想）期間だが、20年先（2040年）頃の人口世帯、経済、地域社会、行政リソースなどがどうなってしまうかということ踏まえて、この先の10年を考えるべき。そうすると危機感が湧いてくるはずである。	・区を取り巻く環境変化と対応として、令和22年（2040年）も見据えていることから、答申案の修正は行わない。
	(3) 現基本構想に基づいた区の取組の振り返り	現基本構想の達成度が%で示されているが、リアリティがない。それはどの資料を見ればわかるのか。これだけの達成率なら新基本構想策定の背景になるのか不明である。＜外、同趣旨3項目＞ 現基本構想のどこが達成できて何が不十分か、特に未達成の部分をはっきりさせてほしい。＜外、同趣旨3項目＞ 前基本構想の進展が未達にも関わらず、新基本構想で新たな環境問題等で危機感を煽っており、前基本構想を棚上げ、反故にするのではないかという感じがした。＜外、同趣旨1項目＞ 新たな基本構想が「これまでの取組の方向を基本的に継承し～（省略）発展させていく」方向性に賛同します。	【答申案修正】 ・今後さらに推進していくべき課題について、審議会で出た意見の例示を追記する。 ・現基本構想の達成状況がわかる資料の作成・周知等については、行政に伝える扱いとする。
		ソフト面に焦点を当てた 災害に強いまちづくりがより一層求められてくることになることとあるが、「より一層求められる」のは従来のハード面からの対策である。ソフト面はその対策があって初めて大きな効果を発揮する。	・ハード面の対策の重要性も前段で記載されていることから、答申案の修正は行わない。
		SDGsに言及しているが、本質的な理念と総合的な目標が反映されていない。「誰一人取り残さない」政策とは格差の是正である。また、すべての取組で「ジェンダー平等」の促進が求められている。それが「ジェンダー平等の主流化」であり、その視点が全く欠如している。 「性的指向や性自認等」という言葉ははいつているが、基本構想に列記することは敢えて強調しているようにも見えて違和感を感じる。男女の性以外のものを多様化という言葉で、一括りにしてしまうことがどうかも疑問である。 国籍、性別、年齢や障害の有無といったものと「性的指向や性自認」を併記して記入するのは次元が違う内容だと感じる。もっと慎重にデリケートに扱う内容でもあり、ここに載せるような内容ではない。 「国籍や性別、年齢の違いや障害の有無、性的指向や性自認等」の文言の中に、「人種、宗教、出自、政治的思想、意見や価値観の対立」なども加えてほしい。国内には人種、宗教、出自、政治的思想、意見や価値観の対立など、より大きな差別や対立が存在し、杉並区にも波及している。 「性的指向や性自認等」について、列記するほど特筆して差別意識が強い問題でもなく当事者たちも「そっとしておいてほしい」という人が多いとも聞くので、削除した方が良いと考える。	・社会的な課題として、性自認、性的指向を例示したものであり、また、その他の概念などは、「等」の中で読み取れることから、答申案の修正は行わない。
	(4) 区を取り巻く環境変化と対応	区民生活からのベクトルが欠けていると感じた。暮らしの中に入り込むICTやDXへの視点は、コロナによる影響でもより鮮明になった不安や未来に必要で大事な取組であることが具体的に書かれることが必要ではないか。 20年後には認知症独居老人の増加、空き家の増加、コミュニティの変質、区の財政力の低下と行政人材の逼迫などが予想され、また災害がいつ来るやもしれずという状況がある。社会コストの増加や財政資金の投下効率も悪化することも予想され、地域ごとの違いの大きいのも杉並区の特徴であり、そこから杉並区ならではの「中長期的な政策課題」が出てくる。 区の環境から見て「適正人口」を想定してもいいのではないか。それによって、諸課題の対処内容が決まってくる。 人生100年時代、超高齢社会は単身世帯が主流になることである。その高齢層に占める女性割合の増加、経済的な格差・貧困の女性に占める割合の多さなど、分析・調査に男女差の視点が不可欠であり、その分析のうえに、政策立案が求められているがされていない。 災害、特に地震と気候は被害が大きいのが、確実に迫って来ている。未然防止と災害対処の面から、かなり抜本的方策（東京の一極集中の緩和、杉並区の災害耐力の“南高北低”の是正）が必要である。 コロナの感染拡大、近年の気候変動の対応はとくに重視すべき課題である。早急にあらゆる政策の根本的な見直し、変革が求められている。国の諸政面での立ち遅れに依存することなく、多様な価値観を尊重し、区民の人権を優先した区の先駆的な対応が必要であり、そのためには管理職に男性が偏っている現状では公正な政策立案はできない。	・効率的かつ効果的な区政運営だけでなく、行政サービスの質の向上の視点も記載していることから、答申案の修正は行わない。 ・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
		<p>SDG sにおける「誰一人取り残さない社会」という共通理念が重要である。しかし、コロナ禍にあって、人々への格差が広がって、弱者がより困難に直面していることの前には、もう少し危機感を強くもたなければならない。</p> <p>「一緒にしよう」というインクルーシブなやり方を強く打ち出す。そのモデルとして、阿佐ヶ谷駅前自然公園をつくり、唯一人工物として「Fika Fika」分店を設置し、杉並区のブランド「人と自然のにぎわい」とされたい。</p> <p>区職員は、「区民の声を聞く」という点で、大きな齟齬がある。“経営”どころではない。「自治の底力」を言う前に、「隗より始めよ」である。まずは幹部から足腰をしっかり鍛えなければならない。</p> <p>一般的に区のスタッフは企画中心で運営の実務はPFIなど民間等への委託が中心のため現場感が喪失しているのではと危惧される。また、新規取組施策に比べて、これまでやってきた施策の維持拡充への熱意が薄くなっている</p> <p>町内会の行政における位置づけがあいまい。そうした問題を解決しないと「絵にかいたもち」になる。</p>	<p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>
<p>第1 基本構想策定の背景</p>	<p>(4) 区を取り巻く環境変化と対応</p>	<p>⑥まで読むと①は⑥の課題とリンクして、「100年時代」（表側）への希望？の裏側の問題をつきつけられた感じがした。③→⑤→④の順番の方が良い。</p> <p>前基本構想審議会専門部会では、当時の杉並区人口は減少し、特に荻窪は減少が著しいとしていたが、大間違いであった。実際は増加しており、今後60万人まで増加と推測している。</p> <p>②確実に起きる災害への備えの重要性について、建物の耐震不燃化や水害対策、都市計画道路の整備などの内容は、どういった状況の地域に優先して行うのかという表記がないのでは意味がない。</p> <p>今後10年間を描く杉並区基本構想は、SDG sの取組時期と重なる。基礎自治体こそ、10年先は「だれ一人取り残さない（取り残されないではなく）杉並（“社会”とすることで他所ごとになってしまう）」、あるいは「誰一人として不幸にしない杉並」の実現を目指す必要がある。その小項目として、①、②、④、⑤があると捉えるべき。</p> <p>「そのためには、生活する中での不安を取り除くことが大切です。安心、安全に生活するために、ジェンダー平等を追求し、暴力を認めない社会をつくります。」を追加してほしい。</p> <p>今後は、税収減による厳しい財政運営が避けられないという視点に立ち、引き続き財政運営の健全化に努めるというのであれば、「支出削減」という一言を記載するほうが分かりやすい。</p>	<p>・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。</p>

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
第2 基本構想を貫く3つの基本的理念	認め合い 支え合う	誰一人として取り残されない社会という点から、差別の禁止を明記することが必須である。「すべての差別を許さない杉並にします。」と明記してほしい。 全ての意見を聞き、それぞれの立ち位置・価値観を認め、住民の暮らしの心地よさを第一に、互いの存在を認め合い支え合う、特に弱者を支えられる区政を目指すのは区政の基本である。	【答申案修正】 ・誰一人として取り残されない社会の視点から、差別をなくす視点を追記する。 ・基本的理念は、杉並区が目指すまちの姿に向かったの大きな方向性を示したのもであり、個別の分野に関しては、「第4 分野ごとの将来像と取組の方向性」などで記載し、答申案の修正は行わない。
	安全・安心のまち つながりで築く	「安全 安心のまち つながりで築く」の項の記載を「まちのつながり、人のつながりだけでなく、すべての生き物の繋がりも大切にします。」とする。＜外、同趣旨1項目＞ まずは『つながりを築く』ではないか。 「つながりで築く」まちづくりは賛成である。杉並は、日々の普通の暮らしの中で住民同士の柔らかい繋がりを大切に子どもたちが地域で優しく見守られる住民主体の街である。駅前でも人々の暮らしが見える、車椅子も杖の人もゆっくり歩いて個人商店を覗き立ち話を楽しめる、そんなのどかな住宅街の充実を区政の主要目的にされたい。	
	次世代を育み引き継ぐ	正にそのとおり。貴重な生きるに必須の資源を後世に残さねばならない。しかし、区では防災が喫緊の課題という阿佐谷北で、森を潰そうとしており、本項に矛盾する。 暮らしの基盤を守るためには、貧困改善に取り組むことが必須である。「杉並の次代を担う子どもを地域社会全体で育てていきます。」に続けて、「そのために、貧困問題の改善に取り組めます。」と明記してほしい。＜外、同趣旨1項目＞ 3つの基本理念の一つに「次世代を育み 引き継ぐ」が入れられたのは素晴らしい。「理念」が地域への子育て支援へ結びつくことを期待する。 次世代を育むにはまず、子どもが心満ち足りた子ども時代を過ごせること。競争・監視・支配に委縮されずに、大人の優しい見護りの中で楽しい子ども時代を堪能することで、大人社会への信頼と希望が生まれ、次世代を喜んで引き継ぐ頼もしい社会人が育つはずである。	
		「3つの基本的理念」は、言葉としては入りやすいが、人権を守るとか、住民自治を基本に据えるとか、区民のいのちとくらし守り、地域の特色を生かした経済やまちづくりといった、区民の日常のくらしにむすびついた基本的なありようを表現すべき。	
第3 杉並区が目指すまちの姿		今回杉並区が目指すまちの姿とした「みどり豊かな 住まいのみやこ」は、前回に比べても具体性に欠け基本構想のイメージがわからない。再考を望む。＜外、同趣旨8項目＞ 「住まいのみやこ」などわけ分からない表現はしないでほしい。杉並区に住んで本当によかったと思えるような「福祉と文化のまち」にしてほしい。 「みやこ」という表現に非常に違和感がある。「住宅都市」では代わり映えしないのであれば、シンプルに「まち」としてはどうか。 「住まい」そのものが人々の暮らす空間であり、「みやこ」と同義となる。「みやこ」を使いたければ、文法的には「みどり豊かなみやこ 杉並」などの表記になる。国語的に誤りであり、訂正が必要である。 「誰もが長く住みたいまちに」というVisionが示されれば、策定された多くのMissionがVision実現のための有効な手段となると理解できる。「みどり豊かな住まいのみやこ」ではVisionとしては不十分ではないか。公園、美術館、建物、イベント等、どのように計画、実行したら多くの人達を惹きつけることが出来るか考えていただきたい。 東京都の「あなたのまちの地域危険度」に杉並区東部があげられており、この内容の記載がないのでは、真の杉並区がめざすまちの姿を表記していることにならず、危険地域があるという問題点を明記することが肝要ではないか。 区は縄文時代の中心的な集落群であったと想定され、巨大な環状集落は都内ではほとんど見られない大発見であり、貴重な存在と考古学協会の方が評価され、世界最古の磨製石斧が発見されていることから、「文教都市・杉並」としてはどうか。 緑豊かな住まいのまちを目指す構想は大切である。区内には何百年もかけて育った豊かな緑の森・林・並木がかなりあります。地球温暖化の危機が目に見える今、経済的理由で樹木を伐ってしまうことなく、杉並の誇りである大切な樹木たちを護る、賢い区政を期待する。＜外、同趣旨1項目＞ 「みどり豊かな住まいのみやこ」という一行のキャッチフレーズと3つの基本理念という構図はわかりやすく良い。	【答申案修正】 ・杉並の個性や特徴を端的に表し、短いフレーズで区民にとって覚えやすく伝わりやすいものとするというコンセプトで設定したものであり、その考え方を追記する。

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「防災・防犯」分野	「地区特性ごとの記述」や「地域特性を把握と、メリハリ取り組み必要性記述」があって良いのではないかと考える。＜外、同趣旨1項目＞	【答申案修正】 ・重点的な取組「■災害に強いまちづくりの基盤づくり」に、地域ごとの特性に応じた取組やメリハリを付けた取組を進めていく視点を追記する。
		<p>「みんなでつくる」については、行政の責任逃れにみえる。特に防犯・防災は行政の力が必須。</p> <p>電柱を無くすのはもっとすすめて欲しい。</p> <p>木造住宅密集地域内でのポケットパークになりうる用地の取得を行い、震災時の地域危険度が下がるような対策が必要と思う。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>災害時要配慮者を地域ぐるみで支える仕組みの充実・強化について、「誰」が「どのように」支えるのかを明確にしておく必要がある。震災救援所のみならず、福祉救援所の位置づけやその感染症対策なども横断的に実情に沿った内容、想定が必須である。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>防災・防犯・災害に地域の人の支え合いがないとだめである。近所の人とつながりを持たないとだめなので、町会・自治会に入会して近所づき合いをしてもらいたい。</p> <p>犯罪者の更生に地域の力は必要であり、再犯を防ぐ、種々の取組を考えていただきたい。</p> <p>都と区で一部費用負担し、町会自治会が防犯カメラを設置・運営する施策は、公的機関の責任転嫁と思料する。公的機関が管理・運営し、場合によって町会等が一部費用負担するやり方が望ましい。</p>	<p>・「環境・みどり分野」において、平時におけるグリーンインフラの機能だけでなく、防災の視点でも記載していることから、答申案の修正は行わない。</p> <p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>
		<p>風水害に対する備えとして、震災救援所等の災害時の拠点における長期の停電への対策に取り組むことを追記することを提案する。</p> <p>コロナ禍を踏まえ、震災救援所の機能（換気・冷暖房機能を含む）の拡充や備蓄物資の拡充、在宅避難を可能とする機能を備えた住宅整備の支援することを追記することを提案する。</p> <p>「災害に強いまちの基盤づくり」は、必要度の高い地域から実施されたいと考えられるが、具体的にはどの地域を考えているのか、きちんと記載してほしい。</p> <p>取組の方向性（2）は、「区民、民間事業者、NPO等の幅広い地域の担い手を結集し、災害時には役割を分担してみんなで災害に立ち向かう共助の仕組みを充実することにより、」へ修正が必要である。</p> <p>地域にある震災救援所のいくつかは、大震災時に危険な地域の中にあるという記載がまるでなく、地名の明記を含めた記載が、地域住民が協力するにあたって必要である。</p> <p>阿佐谷南・高円寺南の不燃化特区にある優先整備路線の拡幅について、問題の解決に向けて、規制や法制度の壁に風穴を開けるようなことを、新基本構想に盛り込んでほしい。</p> <p>重点的な取組の記載を「延焼遮断帯となる緑地や都市計画道路の整備、生物多様性に配慮したオープンスペースの確保など、風水害に対する備えとして、流域治水を進め、雨水流出抑制施設の設置などの流域対策に取り組めます。」とする。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>犯罪の原因を減らす「犯罪を生まないまち」を目指す区政が理想である。犯罪を生む原因はいろいろあるが、大きな原因は、貧困や差別、競争社会のストレス、弱者の息苦しさにある。地方行政の一番の仕事は福祉であり、杉並区が福祉大区を誇れるように心から応援する。</p> <p>防犯カメラの設置や通話録音機の貸与など機器の力を生かすことは有効かも知れないが、地域の人と人との繋がりのあり方、隣人との関係を密にして互いに声を掛け合えるような地域社会づくりを先導することの方が重要で現実的と考える。</p>	<p>・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。</p>

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「まちづくり・地域産業」分野	隣接する区市に区民の生活圏となっている駅があるので、まちづくりの対象を区内18駅に限定する表記は改めてほしい。＜外、同趣旨11項目＞	【答申案修正】 ・意見を踏まえて答申案の修正を行う。
		商業・工業・農業などの地域産業が、区民の暮らしの安全と安心に貢献していることを明記すべきである。	【答申案修正】 ・取組の方向性の説明に、地域産業が区民の暮らしの安全と安心を支えているという視点を追記する。
		駅勢圏を特別視して、今以上の「商業・業務機能の集積」を計ることに賛成できず、住宅地区の魅力になるとは考えられない。	・住宅都市の価値を高める取組として、各駅の特徴を踏まえた多心型のまちづくりを進めることは重要な視点であることから、答申案の修正は行わない。
		杉並の駅前には多様で、自然豊かなところもあり、取組の方向性に「自然」という文言を入れてほしい。	・前段で自然環境への言及を行っていることから、答申案の修正は行わない。
		都市計画道路の整備＝拡張については、「沿道関連住人」だけでなく、多くの杉並区民が、①その必要性 ②法的根拠 ③街づくり について反対意見をあげている。関連住民や区民の多くが認めていない「都市計画道路の整備」という文言を新基本構想に入れることは、やめてほしい。＜外、同趣旨3項目＞	・都市計画道路の機能として、防災やまちづくりの視点に加え、利便性の向上や移動環境の充実など、区民の多様な道路ニーズに対応する観点からも重要な取組である旨を記載していることから、答申案の修正は行わない。 ・個別の路線ごとの整備についての意見は、今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。
		都市計画道路132号線の計画に反対する。いままでの商店街がなくなり、西荻窪の雰囲気が変わってしまう。そもそも渋滞も無く、今まで安全で安心な道路である。＜外、同趣旨15項目＞	
		駅・道路などのバリアフリー化を推進し、ホームドアの設置など必要な対策を強化すべき	
		東西への移動は便利だが、南北の移動がスムーズに出来るように改善して欲しい。	
		コミュニティバスの増便と運行範囲の拡大を求める。＜外、同趣旨3項目＞	
		阿佐谷北の木造住宅密集地域の道づくりで防災上整備が必要とされた路線の整備計画が半分の距離に短縮されて一時避難場所には届かないままとなっている。	
外環道の工事はストップしてほしい。事故があった以上、即刻停止しかないことは明らか。			
道路の一方通行路を増やすことは、良質な住宅都市の創生に繋がる。			
車線の幅が車でギリギリなので自転車でも、車で走っていても怖い。			
環状八号線右折時信号の統一化。右折指示の場所と青信号右折の場所が有り分かりにくい。	・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。		
小学生や中学生などがボールを使って遊ぶ場がなく、道路でキャッチボール等をして、トラブルになっている状況を耳にする。			
鉄道の踏切をなくし立体交差（高架化）を順次推進していくべき。			
富士見ヶ丘の南は大きなスーパーなどもなく、道も狭く、バス路線もなく不便なため開発してほしい。また、富士見ヶ丘小学校の跡地にスポーツセンターや図書館を希望する。			
一部の自治体で行っている、チャレンジショップのような形を区でも検討してみてもいいのではないかな。			
就労支援や中小事業者支援をリンクさせた、縦割りではない、よい取り組みや地域モデルが構築できたらと願う。			
区立塚山公園を親子で使える林間学校、施設として整備、宿泊できるようしてはどうか。			
杉並区域では駅近でそれなりのキャパシティのある施設がないので、様々な用途に応えられる複合施設ができると、新たな賑わいや活気につながると思う。			

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
		<p>区内での移動がそれほど不自由ではない杉並区の中では、自転車走行空間の整備やバリアフリーのバスを拡充する方が現実的と考える。</p> <p>将来の人口減少に伴う空き家対策からも、集合住宅化を進め公開空地の緑化を促す施策が望ましい。</p> <p>貧困や弱者差別・外国人差別などで住まいのない人々が多い現状で、空き家・空き間を行政が上手に借り上げ、支援活用し、安心して住めるシステムを早急に実現してほしい。一人住まいが心細い年寄りも多く、「空き家・空き間の有効安全活用を実現する専門委員会」を立ち上げてほしい。</p> <p>中央線特急停車ホームに伴うJR西口と丸ノ内線西口を地下改札で一体化する。</p> <p>荻窪駅南北通路を24時間通行を要望する。</p> <p>西口の荻窪税務署手前の通路と北側の白山通り方向に線路下に自転車通行が可能な南北地下通路をつくるべき。</p> <p>エイトライナー路線を荻窪駅の地下駅に計画すること。大江戸線のようなリニア路線であれば、急曲線（半径50m）、急勾配も可能であり、JR・丸ノ内線駅の下部に地下駅を設ければ乗換容易である。</p> <p>JR品川駅と国道上にデッキによる自由通路の計画が進んでいる。自由通路には小型移動設備によるMaaSの利用形態がパースで示されているが、荻窪駅南北にもこのようなプランを描いては如何？</p> <p>荻窪駅周辺の駐輪場は区内最大数であり、駅勢圏が広いので便利な荻窪駅に集まるが、MaaSによる利用形態によっては、もっと近い駅に駐輪場が必要になり、荻窪に来なくてもよくなるのではないかな。</p> <p>荻窪駅をMaaS等の多様な移動手段が出現に対応広場の用途に変えたとともに、青梅街道に溢れるバス停を広場に集約する。</p>	<p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>
<p>第4 分野ごとの将来像と取組の方向性</p>	<p>「まちづくり・地域産業」分野</p>	<p>この間の区行政では、「地域ごとの個性」は削られ、画一的な駅前開発が進んでいるように思える。</p> <p>荻窪駅周辺まちづくりに最初から参加しているが、遅々として進展しないまちづくりにあきらめモードが見える。</p> <p>シームレスな移動サービスとは、どのようなものか？</p> <p>すべての住民が安心して利用できる交通インフラ構想をもう少し明確に記載すべきだと思われる。</p> <p>取組の方向性の中の、大規模公共施設の立地について記載を再考してほしい。</p> <p>道路や上下水道のインフラ整備の削減といった考えも明記してほしい。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>取組の方向性の中の、自然環境という単語は何を意味しているのかが記載されておらず、考えの記載が必要である。</p> <p>まちづくりにはみどりが欠かせず、記載をお願いしたい。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>「シームレスな移動サービス」「MaaS」等、“新しい移動サービス”の活用をうたわれているが、そこには関係事業者との連携も重要になる。既存の交通事業者や福祉関連の送迎サービスなど、連携が容易ではないことも考えられるので、偏りのない、幅広い視点で検討いただきたい。</p> <p>バリアフリー化が進んでいない駅として、荻窪駅が残された課題であることを記述していない。</p> <p>企業が、安心して経営していく上での中小事業者への支援、また新たに起業を考えている方に対しての、創業支援の文言が記載されており、特に意見等はない。</p> <p>この項での記載は、「みどり豊かな 住まいのみやこ」と矛盾する。</p>	<p>・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。</p>

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「環境・みどり」分野	記載を「世界的な課題である気候危機への対応のみならず、生物多様性の喪失など様々な環境問題に地域全体で」とする。取組の方向性（3）を「（3）みどりや水辺を育み、自然と人の営みが共存できるまちづくりを進める」とし、「○3つの河川を活かしたまちづくりを進めます。」、「○杉並区のみどりの基盤となっている屋敷林の保全を進めます。」、「○水辺の風景を再生し、人と川のつながりを回復する。」を加える。＜外、同趣旨1件＞	【答申案修正】 ・取組の方向性の記載について、意見を踏まえて答申案の修正を行う。その他の意見は、参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。
		「気候危機に立ち向かうため、気候変動対策を推進する」とあるが、内容が曖昧でよくわからない。「みどりを育み、自然と人の営みが共存できるまちづくりを進める」を1番に取り組みべきだと思う。	・世界的な課題である気候変動対策への取組は、喫緊の課題であることから、答申案の修正は行わない。
		プラスチックごみ問題についても積極的に取り組まれるよう、言及があると良いと考える。	・プラスチックを含め、資源を大切にすることを記載していることから、答申案の修正は行わない。
		都市農地の保全は、産業ではないのか。	・「まちづくり・地域産業」分野においても、農業についての記載があることから、答申案の修正は行わない。
		<p>区として国よりさらに積極的施策を打ち出しグリーン都市をめざすべきである。</p> <p>住宅、アパート、マンション等建設する前に、何%を緑にするなどして、CO2軽減にもつなげる。</p> <p>「みどりの保全」は区民の望むことであり、屋敷林等を伐採するのをやめてほしい。＜外、同趣旨4項目＞</p> <p>阿佐ヶ谷駅周辺の特色や魅力は、けやき屋敷のみどりである。ここは、今後どのようなみどりを考えていくのか。</p> <p>荻窪地域区民センターのビオトープにガマガエルが卵を産みに来ていたが、近くの住人宅にガマガエルが侵入したので気持ちが悪いと区役所にいうとすべて処分した。（ビオトープの意味を知っているのだろうか）</p> <p>エネルギーについて、水素、ソーラーパネル等、区で公的に積極的に取り入れる。</p> <p>学校や区立公共施設を利用して太陽光発電器を設置して電力のグリーン化を図る。＜外、同趣旨2項目＞</p> <p>公用自動車の電気自動車への切り替えや、公共施設に充電器を設置して電動化を推進する。</p> <p>自然環境調査に基づく生物多様性地域戦略を早く策定し、必要な対処をしていくことが必要である。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>自然環境調査の継続と拡充及び政策への活用をしてほしい。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>1996年に杉並中継所の稼働によって発生した健康被害・自然環境異変（杉並病）と、1970年に東京立正高校に発生した光化学スモッグ被害は、ともに全国に先例をみない環境破壊被害だった。全国の個人・機関の研究に資するよう保存と資料提供の責任を果たしていただくことを切望します。</p> <p>公園、広場を増やし、緑豊かにしてほしい。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>グリーンインフラの促進には、その核となる農地を含む緑地やその他の施設等について積極的な保全と活用の対応を行うべきである。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>現下のかつ長期的な問題はプラスチック、資源ごみその他の廃棄物の処理・リサイクルであって、財政負担も大きい。それに行政と事業者と区民がどう取り組むかではないか。</p> <p>路上のペットボトル飲料の自動販売機削減を、全国に先駆けて杉並区が取り組むのはどうか。</p> <p>行政⇒区民や市民団体⇒区民という発信の仕方では限界があるため、区内事業者と連携して情報を届ける手法を検討されてはどうか。</p> <p>自治体自ら再生エネルギー由来の電力会社と契約するなど、エネルギーシフトを具体的に進める。</p>	<p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「環境・みどり」分野	<p>重点的な取組のグリーンインフラの説明に、「雨庭、雨水タンク、スポンジパーク、バイオスウェール」など具体的な整備方法や装置を挿入する。「■持続可能な農地や屋敷林の保全」とする。</p> <p>東京都気候変動適応計画を踏まえて、適応策として杉並区が取組む内容を追記すべきと考える。都市型水害、超大型台風等の異常気象への備えとして「防災対応力への強化」について記載することを提案する。</p> <p>水とみどりのネットワークを構築していくことが、結局は杉並区の住環境をも整え、気候変動対策にも繋がっていく。</p> <p>農地があることで、風景・景観だけでなく、生物多様性の保全、水源涵養、雨水流出対策（防災）などメリットが様々あり、農地の存在そのものの価値がより明確に示されると良いと考える。</p> <p>なぜ、都市に緑が必要なのか、それを杉並区はどのように守り、育てて行こうとしているのかという、哲学も、意欲も感じられない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。
	「健康・医療」分野	<p>コロナのような異常事態にどう対処するか、そのための体制をどう整備していくかは、新構想では必ず明確にしなければならない。＜外、同趣旨2項目＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍を踏まえ、地域医療体制の強化などの記載があることから、答申案の修正は行わない。
		<p>主要ネットワークとして、ケア24、病院、福祉施設等との間で構築し、そこにアクセスすることで、必要な情報が得られ、社会的孤立や疎外が緩和されることが必要である。</p> <p>ICTで何でも解決できるという夢を追うのではなく、人間社会だけが人を支えられるのだという現実を直視して、医療・福祉・介護の人材育成に取り組むべきである。</p> <p>情報格差を解消するために、ICTツールを活用することで正しい情報を迅速に対象者に伝えられることができ、状況を一元的に管理できるシステム作りがとても有効だと思う。個人情報解決方法にまで踏み込んだ政策決定をしてもらえると、「住み慣れた地域で未永く暮らせる環境づくり」が進むと思う。</p> <p>生活習慣病及びその予備軍に対しては、個別具体的なコンサルテーションするプログラムが必要である。類する仕組みを施設に入る必要のない60代後半の老人向けにコンサルテーションと実技指導ができないものか。検診担当医と民間ジムや区営のスポーツ施設の担当者及び管理栄養士の連携で可能と思われる。</p> <p>取り組みの方向性(3)の感染症などの前に「コロナなど」を入れ、医療体制と共に「休業などの補償」を入れる。重点的な取組の2番目に「非常時にも必要な医療が安心して受けられる人的措置も含む環境を整える」を挿入。「杉並区に2つの保健所を」を都に訴え、それまでは区立の保健所を創設する。</p> <p>人口10万に一つずつくらいの保健所が必要ではないか。 保健所の職員は、本雇用の保険医療専門職員をメインに運営する必要がある。</p> <p>荻窪駅南口と阿佐ヶ谷北口広場にある喫煙コーナーを廃止してほしい。行政があえてこういうコーナーを設置する必要はない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。
		<p>杉並の医療費は魅力の一つであり、表面に出し、若い世代の確保と共存が必要だと思う。</p> <p>健康長寿社会時代を目指し、元気であれば気も心も幸せであるが、それには現在の医療費の増加による他の分野の改革に影響があるのでないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。
		<p>取組の方向性（3）は、「公的な介護の充実に加えて、家族や関係者を個別に支えている人（ケアラー）が孤立したり、・・・」といった文章に変えたほうが良いと思う。</p>	<p>【答申案修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアラーの支援だけでなく、公的な介護の充実の視点を追記する。
		<p>基本構想答申案で取り上げている助け合い、支え合いは「互助」と言え、「共助」という語句は適切ではないと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一般的にも使われている言葉でもあることから、答申案の修正は行わない。
	「福祉・地域共生」分野	<p>ペットに関する価値観は分かれる。共生とは、この相反する価値観を包摂（止揚）した概念と言え。基本構想を貫く3つの基本的概念には、「様々な価値観を互いに認め合い」と謳っている。杉並区に生存する人と動物（ペット）との共生、どう折り合いをつけるか、とても大切な概念であるため、基本構想に加えていただきたい。＜外、同趣旨7項目＞</p> <p>動物愛護のとり組みがないのはどうしてか。犬猫の殺処分、譲渡会、問題はたくさんあり、動物の虐待問題も最大の問題である。これからとくに、杉並は動物との共生を目指す区だと思う。動物の命と健康を守る姿勢、体制を希望する。＜外、同趣旨2項目＞</p> <p>ドッグランのある公園を作って欲しい。犬同士の交流の場ができると良い。犬のしつけが教われる教室があると良い。</p> <p>車中に犬2頭が3日間閉じ込められ、給餌給水がされていないため警察に保護を求めるも事態は一向に動かなかった。動物虐待と判断し、緊急一保護を含め適切かつ効率的に運用できるよう現場フローを定め指導するよう要望する。また、都内で無人住居に猫20数匹が取り残されたが、都には、早期に警察や動物愛護団体と連携し迅速に働きかけをしてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> この間の基本構想審議会での議論内容等を踏まえ、答申案の修正は行わない。 なお、今後の体制やドッグランのある公園整備等については、今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「福祉・地域共生」分野	<p>区市町村を越えた介護の全体像をつかめる話ができる相談コーナーのようなものを希望する。</p> <p>ケアラーの孤独について、特にヤングケアラーはひとりで抱えがちで将来設計に関しても不安を感じており、将来の選択肢を奪わない仕組みが重要だと思う。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>「国籍や性別、障害の有無によって差別しない」という施策の原則を区民に示してほしい。</p> <p>第1章でSDGsや性的指向・性自認に言及されているが、その後の頁では、具体的な施政方針を見つけることができない。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>性的指向や性自認等にかかわらず、お互いを理解し合うため、行政として必要な制度を作ることが先であり、そのことをまず明らかにしてほしい。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>区の施策として共生社会づくりに必要なことは、弱い立場に置かれた人を対等に扱い差別しない制度をつくり、そのような意識を区民に啓発することであり、ボランティア活動や社会参加を盛んにすることではない。</p> <p>差別、人権について、お互いを認め合う、根本の人格形成を家庭で親が学校で先生が、イジメやDV等真剣に取り組み大人の真剣な生き方をもっと啓発しよう。</p> <p>多様な福祉基盤の整備 「住み続けられる杉並」を多くの人が望んでいる。家賃補助制度や空き家対策など、杉並区としての住環境の支援、公的な在宅サービス、施設サービスの充実を希望する。</p> <p>既存の福祉事業者や施設等とも連携して、社会資源が支え・支えられる、相互に良い関係を築けるよう、横断的に検討していただけると良いと思う。＜外、同趣旨2項目＞</p> <p>ICTの活用については、情報格差への眼差しやサポートは重要だと考え、ICT活用については重層的な構造を組み上げていく必要がある。</p> <p>ICTで共助できるなどという夢を追うべきではない。地域に貢献したいと思うような人材を育成することが、未来の杉並を豊かにすると考える。</p> <p>専門家や区の職員を増やし人間的なつながりの中で人生が送れることが大事であり、デジタルが問題を解決するわけではないので、ひとの力と、地域の知恵で、頼りがいある地域集団がつかれるようにできないか。</p> <p>地域とのつながりがなくなった高齢者が孤独を感じて生活意欲減退が見られる。そのためにも繋がれる仕組みづくりはとても重要で、本人の意欲を引き出すアプローチが求められる。</p> <p>地域共生を進めるには、町内会の意識改革や地域共生に理解のある人が町内会に多数参加する事が大事と思う。</p> <p>現在民生委員のなり手が少なく課題となっており、老-老介護として一人の負担を減らし数多くで支え合う方向ではないか。</p> <p>生活保護は福祉の基本で、住民の権利であるが、受給を恥とさせるような空気を行政も作っている。福祉の仕事に誇りを持って働ける安定雇用の専門職員だけが相談にのれるようにする必要がある。</p> <p>引きこもり、高齢世帯、貧困母子家庭等支援が必要な人に対して社会福祉協議会やNPO等支援機関の存在が周知されていない。</p> <p>問題を抱えている人が福祉の網から漏れない工夫、情報提供をお願いする。</p>	<p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>
		<p>福祉や共生社会づくりの施策の原則として、「子どもの権利条約」「障害者権利条約」「差別解消法」の条約、法律名を入れてほしい。</p> <p>孤独死や医療難民が増えている現実はどう対処していくかといった、焦眉の課題に応える姿勢に欠けているといわざるをえません。</p> <p>「こども食堂」を単なるイベントとしての認識ではなく、地域の中の支援の拠点（食の確保、防災、孤立化防止等）としての位置づけを基本構想の中に取り入れるよう要望する。＜外、同趣旨1項目＞</p>	<p>・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。</p>

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「子ども」分野	<p>子供の権利について、ことさらに言うことではない。</p> <p>子どもの権利条約の思想を明記してほしい。</p> <p>東京都が定める「子ども基本条例」に記載しているように、子どもの意見をおざなりにしない・施策に反映する強い意志・決意を表現してほしい。</p>	<p>・子どもの権利は、今日的に尊重されるべきものであり、答申案の修正は行わない。</p>
		<p>学校教育との連携・協働の視点が欠けている。</p>	<p>・区民やコミュニティとの交流や学校施設等についての活用の記載があることから、答申案の修正は行わない。</p>
		<p>前回の基本構想にあった「少子化対策」が削除されているが、育てていくことに不安があるままでは、だれも杉並区で子供を産みたいと思わなくなる。</p>	<p>・取組の方向性に、安心して子どもを産み育てられる環境をつくる視点の記載があることから、答申案の修正は行わない。</p>
		<p>児童館は学童クラブと共に放課後だけでなく、夏休みや冬休みなども子どもの遊び場として地域の子どもが安心して集える場所になっていた。子育てを地域社会で支える取組の充実の内容として「保育園・学童クラブ等における質の高いサービスを提供します。また、子育てを応援する地域づくりの取組や、地域の力を生かした子育て支援策の充実を図ります」とあるが、ぜひ実行してほしいと願う。</p> <p>子どもたちも親も安心して過ごせる場所の整備とあるが、その中核的役割を担っていたのが、児童館である。これをなくしていくことは、大切な杉並区の財産をなくしていくことになる。＜外、同趣旨8件＞</p> <p>若い子育て世代が住みたくなるような街をつくってほしい。また、中高生など高学年になる程公共の場（公園、図書館等）には居場所や遊び場がないのが現状である。</p> <p>虐待や孤独など心に問題を抱えながら生きている人をサポートしてほしい。</p> <p>子供のイジメは一生引きずることも考えられ、相談できる人の手配が必要と思う。</p> <p>これまでの杉並区の児童館・学童クラブにサービスが悪いという苦情があったのか。その点を十分検証したうえで、安易な「民営化」は避けてほしい。</p> <p>子どもたちがやたらに拘束されず、子どものままで楽しい子ども時代を過ごせるような、子どもの居場所、遊び場、たまり場をたくさん作る取組を期待する。子どもの居場所作り政策は、子ども時代の思い出のある人・子育てを経験している人・児童心理の専門家などを交えた策定委員会に任せることを提案する。</p> <p>小学校における学童の拡充・充実が急務の課題と考える。</p> <p>地域を支える人材を発掘したり育てるため、子育てを始めた保護者への社会教育をしっかりとやっていく必要がある。</p> <p>幼児保育も放課後の子どもの生活についても、民間委託されることなく、公的な責任を全うしてほしい。</p> <p>インクルーシブな社会にしていくため、障害の有無など関係なく一緒に学び、育っていくといった取り組みをお願いしたい。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>安心して子どもを産み育てられる社会を作るために男性への教育を強化できないか。</p>	<p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>
		<p>「子どもの権利を尊重し、子どもたちの声を吸い上げる」のは、現在特に大切だと感じる。子どもの貧困がこれほど増えたり、不登校やひきこもりがもう長く言われ続けたり、ヤングケアラーが問題になったりと、子どもがますます生きづらい状況にあることがはっきりしてきている。</p> <p>重点的な取組に、「子どもたちを」中心に据えた委員会を立ち上げ、「『子どもの権利条約・すぎなみ』をつくる。」を入れる。「子どもを孤立や貧困・虐待から守る」に変える。また、「福祉事務所のケースワーカーなどの職員を増やす」を入れる。</p> <p>乳幼児の優先しすぎは、一過性の投資となるリスクが高く、分野ごとの将来像の表現は、概念として妥当である。</p> <p>公立小中学校の施設の地域への開放を明記しては、いかがか。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>学校施設等の活用した子どもたちの過ごせる場所について、どのように整備するのか具体策を示してほしい。</p>	<p>・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。</p>

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
	「子ども」分野	<p>施設の確保だけではなく、必要な能力を有する人材の配置も記載した方が良い。</p> <p>保育園・学童クラブとは、単なるサービスではないので、「児童福祉向上を目指し、保育園・学童クラブ等においては、子供の成長を支え、親子の心身の健康を守る取組」としてはどうか。</p> <p>0歳から18歳までを子どものくくりにすると考えると、この項の内容にイメージがわからない。重点的な取組の2つ目の■にある、「多様な主体」は何か？</p> <p>質の高いサービスとは、どのようなものか具体的に示してほしい。</p> <p>地域の力を生かした子育て支援の充実、横のつながりと、行政サイドがしっかりと誰をも受け止めるという包容力ある施策があつてのことだと思う。</p> <p>「子供の育ち」について。知識偏重になっている。最も欠けているのは「人間性の育成」。「人間脳」発達を是非。『多世代間交流』は必定。</p> <p>大人も尊重されたい部分があるので、一人ひとりの意見を、お互いに、世代関わらず、尊重し合えたら良い。</p>	<p>・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。</p>
第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「学び」分野	<p>「インクルーシブ教育の更なる推進」という文言の追加を検討してほしい。</p> <p>NPO等活動資金助成について、助成対象を広げて、幅広い支援のツールとすべきだと考える。</p> <p>人生100年時代において、生涯学習としての社会教育の役割は非常に大きいので、開放による学校施設の利用などを含めて進めることが重要と考える。</p> <p>租税に対する教育と、人間形成に大切な義務教育期間中に「取り残される」ことなく、学ぶ機会をなくさないことだと考える。 登校や登校渋り、教職員や保護者による送り迎えが必要な生徒など、調査をした上で、「不登校ゼロ」に取り組んでいただきたい。</p> <p>学習や文化のための集会・スポーツ施設の使用料は、原則として無料にするべきである。 学校教育では少人数学級を目指すべきであり、小中学校20人学級を目指して当面区費教職員を確保してほしい。</p> <p>コロナ禍を踏まえ、早急にICT環境を整えてほしい。</p> <p>「一人ひとりの状況に応じた学びや探求を支えるICTの活用を図ります」とあるが、小中の児童生徒全員に一人1台のタブレットを配布での活用について、使い勝手を良くしてほしい。</p> <p>一人ひとりにタブレットを持たせることは、コロナ禍での在宅学習に役立つが、家庭環境により、大きな格差を生む。</p> <p>子ども同士、教員との学びあいの中で想像力が増していくのであって、タブレットの中ではない。</p> <p>部活動の担任制を廃止し、学外顧問の雇用や、事務的な作業・保護者対応を行う人員を設置するなど、教員が教育に余裕をもって向き合える環境が必要に感じる。</p> <p>パソコン室や図書室などに子どもをサポートしたり提案したりできる人員を割けないか。</p> <p>義務教育において、文化的な音楽、美術、体育等の時間数が減らされないことを望む。</p> <p>図書館の質量両面の充実化と居住地域に身近な所に図書館が必要であり、蔵書の充実も必要である。</p> <p>健康・医療とのつながりが大切であり、生涯を通じた学びを通じて、一環した健康づくりができると思う。</p> <p>学校飼育動物について、各学校で飼養方法が異なることから、過酷な環境で動物が飼育されていることが多く見受けられる。学校飼育動物の廃止の検討と現時点における飼育環境の実態調査をお願いしたい。</p>	<p>・誰一人取り残さない学びなどインクルーシブ教育の視点も入っていることから、答申案の修正は行わない。</p> <p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
第4 分野ごとの将来像と取組の方向性	「学び」分野	<p>主体的・対話的で深い学びを通して、生涯の学びに結び付ける環境とはどういうものなのか具体的に示してほしい。</p> <p>I C T活用などはその通りだが、切実なのは、放課後に子どもがどこでどう安全にいて、且つ健全に遊んだり学んだりすることができるかということではないか。</p> <p>小中一貫教育やコミュニティスクールについての記載がないのはどうしてか。</p> <p>「教育振興基本計画」との関連で考えたい。</p> <p>学びのまちを実現していくには、学校運営協議会の存在を欠かすことはできない。総論たる基本構想の中で位置づけてこそ、各論たる教育ビジョンとの整合性がとれる。社会教育と学校教育との協働により誰一人として残さない教育が実現していく。</p>	<p>・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。</p>
	「文化・スポーツ」分野	<p>有形文化財保護に努力するべき。</p> <p>区内のスポーツ施設はまだ不十分であり、沢山つくってほしい。</p> <p>区内の体育施設も駐車場一般使用がないのも利用可にならないか。</p> <p>著名な文化人の資料などが展示されている施設があるとよく、そこを文化芸術活動の創造と発信の場にしてほしい。区立美術館もあるとよい。＜外、同趣旨1項目＞</p>	<p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>
		<p>「学校施設の有効活用とによる様々なスポーツの場と機械を広げるほか、それを支える地域人材等の確保を含めたスポーツ環境の充実を図る。」とあるが、部活動との兼ね合いをどのように考えているのか。</p>	<p>・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。</p>
		<p>「重点的な取組」の主語は、果たして誰なのか。多様性に対応し、ひとりひとりの意欲や個性を尊重するとなると、行政としての「区」が直接提供できる範囲よりも、民間の組織や個人が主体的に推進していくことが期待される部分の方が大きい。</p> <p>8つのそれぞれの分野を、理想的な形に向けていくために、あらゆる職業の方、活動者の方、区民一人ひとりが行動し、誰かの仕事によってつくっていかれるのだと思うが、大きな変化の時代に、不安を感じるのは、その「仕事」「働き方」「労働」という部分だ。</p>	<p>・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。</p>
第5 区政経営の基本姿勢	1 新たな協働のかたちをつくる	<p>既存の枠組みの中でを加速させていくのは限界があると感じている。実証実験的にエリアを限定する等でコンパクトな取り組みを行うことが求められるのではと思う。</p> <p>杉並区にとっての状況にも照らし合わせながら、仕様や運用ルールなども有識者や任意で募集して検討進めていくのが良いと思う。</p> <p>各町会、自治会、商店会などの組織と一緒に取り組まねばならないが、同時に区内にはすでに数多くのNPOや任意団体の存在しており、これらの総力を結集すれば多くの選択肢が生まれるものと思う。</p> <p>多世代で、協働していくために、重要なのは、丁寧な「対話」だと思います。</p> <p>活動したくても、資金がなくて実現できないことがあるように思えるので、「まちづくりファンド」みたいなものをつくりたいです。</p> <p>定期的に各地域で様々な機関や住民同士が話し合える場があると良い。区民センター協議会が地域の現状を共有し、課題整理し、自分達で出来ることを考えて行く、その様な場になれると良い。社会福祉協議会との協働の場の設定も良い。</p> <p>区の職員自身全員が、区民と協働に考えるという視点を持つことを望む。制度を横断的に見渡せる部署（或いは、それをつなぐ役割の職員等）が必要。</p> <p>「行政のみの方で解決していくことは困難」になっているとして、「新たな協働の仕組み」が提案されているが、行政の責任の下で、区民の意向を踏まえて推進する決意を期待したい。＜外、同趣旨1項目＞</p>	<p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>
		<p>一般的なことしか書かれておらず、将来を展望したうえでのきちんとしたメッセージが出されていないように見える。地域コミュニティをどう位置付けるかが重要だと思う。</p> <p>区政経営の仕組みの最適化やデジタルの活用だけではスピードが望めない。厳しい財政のなか、頼りにするのはわずかな報酬で活動してくれる、地域の高齢者や一部のボランティアだが、そこに頼れるのも時間の問題ではないか。</p>	<p>・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。</p>

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
第5 区政経営の基本姿勢	2 デジタルにより誰もが暮らしやすい社会に	<p>情報の得やすさは、「区政の方向・施策の真の目的・実情・問題点などをありのまま住民に開示する姿勢が行政にあるかどうか」で決まる。IT化推進にまい進するのは基本構想の優先順位に入れないほうがいいです。</p> <p>「デジタル化の恩恵を受けられる人と受けられない人の間に生じる格差を解消し、すべての区民が同様のサービスを受けることを可能にしていく」とあるが、具体的にどういった方策を考えているのか。急速なデジタル化は進めず、デジタル手続きと対等の位置付けでアナログ手続きも存続してほしい。＜外、同趣旨2項目＞</p> <p>デジタル区民とアナログ区民が混在する状況の中で、区民の思いがすくいあげられる区政を願う。地域の絆の核は、やはり町会、自治会であり、役員は高齢者が多いのは否めないが、ここを大切に区政が、暮らしや環境、安全・安心の街をつくる原点である。殆どの高齢者は、デジタルの恩恵から遠いところに居る。</p>	<p>・コロナ禍において、デジタル化の推進は焦眉の課題であることから、答申案の修正は行わない。</p> <p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>
	3 未来につなぐ区政経営の推進	<p>「（1）時代やニーズの変化に弾力的に対応できる財政基盤を構築する」とあるが、この項目には、「歳出削減」という言葉が必要である。</p> <p>社会経済状況の悪化や税収不足を新たな税外収入で確保する必要があると思う。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>区政経営の基本姿勢で示されていることは、詰めていえば、税収増は望めず、区民ニーズはいつそう広がるなかで、「構造改革」ということにあり、受益者負担増や効率化、民間登用などによる活性化で存続を図ろうということではない。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>限りある財源を出来るだけプールして、この構想実現には人間力を主力として進行出来たらと思う。区内にはボランティアで活動している方々がいる。若い方々も参加しやすい場を案内していただくと良い。</p> <p>区役所に相談に行くと二人の職員が対応されることが多いが、過剰サービスは望まない。総花的でなくメリハリをつけて、区行政自身の効率化・人員削減を図り区民税の低減を目指すための姿勢を表して欲しい。区民に対しては行届いたサービスを望む前に区民として果たすべき規律を持つ必要があることも具体的且つ積極的に啓蒙する提案をして欲しい。</p> <p>区民のニーズを十分、反映した施設の再編を進めるようにしていただきたいと思う。</p> <p>SDGs的視点、SDGsマインドを持った職員の能力形成について、検討してほしい。</p> <p>どのような状況の区民にも、等しく伝わり、また区民の声が迅速に届く仕組みが必要だと思う。</p> <p>一般区民の意見交換と参加の場が少なすぎないか、区民の旺盛な参加が求められていると思う。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>構想の推進と実現のために、区民の区政への関心をいかに高めるか、何故、区民が区政に無関心なのか原因の究明と適切な対策が必要である。</p> <p>隣接する区市との連携の在り方を考究すべき。</p>	<p>【答申案修正】</p> <p>・時代やニーズの変化に弾力的に対応できるよう、絶えず経費や効率性の精査等をしていく視点を追記する。</p> <p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>
		<p>「地域区民ときちんと向き合い、疑問点や問題とされる点についてしっかりと誠意を持って話し合いを尽くし、区民から出された代案や修正案などもきちんと検討する。「先に結論ありき」のような急速で強硬な施策実行は行わない。検討に必要とされる資料は速やかに公開し、区議会での検討時間を十分にとり、区民意見を十分に反映させられるよう努力する。」という内容を付け加えてほしい。</p>	<p>・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。</p>
その他	<p>基本構想を長期に亘ってぶれることなく推進するために、区政の評価制度を見直す必要がある。開かれた区政、区政の見える化を推進することは、区民の区政への理解を促進し、区政への関心を高める一助になる。</p> <p>定期的に成果などを振り返り、区民にも基本構想を常に意識し続けることができるよう働きかけ続けることが大切だと思う。＜外、同趣旨1項目＞</p> <p>区のなかの地域は、それぞれ歴史、住民、住空間、コミュニティなどの面で個性がある。基本構想を策定後には、区内の地域ごとの課題整理とビジョンに基づくまちづくり計画が必要だが、その策定にあたっては、策定方式（審議会方式の大改善）と新鮮な人材が必要と思うので、検討をお願いしたい。</p> <p>委員会における女性比率が低すぎる点は、昨今の社会情勢をみるに是正すべき。</p> <p>行政として、外国人に寄り添い、生活環境の改善に積極的にかかわることは、日本人居住者の方々にとっても、重要なメッセージである。このようなテーマについて意味のある議論を行うためには、直接、外国人住民に議論に参加していただくことが、必須である。</p> <p>年々増加する外国人居住者への対応方針が必要と考える。言語や習慣などの違いから、自然増に任せておくと、区内に特別な区域が発生してしまう。</p>	<p>【答申案修正】</p> <p>・基本構想の実現を確かなものとするため、行政計画の進捗や達成度を区と区民等が共有していく視点について、追記する。</p> <p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>	

章	項目	意見要旨	対応方針（案）
その他		<p>LGBTの区民の権利、選択的夫婦別姓の要請、障がい者の広範な参画の保障、外国人区民の母国の諸制度の受容などの視点と施策がない。</p> <p>区内のさまざまな街単位、地域単位ごとに、エリアの実情に合った杉並の街意識の向上策、シビック・プライドのネタの発見を試み、発信をしていくべき。</p> <p>杉並区では「通りの名前」「坂の名前」「町名のいわれ」など、町に関する説明板や意識喚起の場が非常に少ない。町名、通り名、坂名などを大切にすることは街を愛すること、我が街感を持つスタート台であり、また効果の大きなアクションでもある。</p> <p>町名について再検討する必要があるか。成宗のように、歴史上の人物に由来するもののほか、地形、職業身分、文化的施設の名前に由来するものなど、歴史そのものでもある。</p> <p>高井戸区民センター駐車場使用料の上限設定をしてほしい。週1回利用しているが、たまに4時間で2000円を超えると高いと思う。</p> <p>今回のコロナ対応で杉並区の方針がよく理解できた。他の行政区より、よく対応されたと感じている。</p> <p>広報に民生委員は無報酬と記載あり、何んでこんな嘘を書くのかと、憤っている。国勢調査、町会役員を中心、団地にポスティングするだけ。経済センサスも業者・郵便にすべき。</p>	<p>・今後の具体的な取組に関する意見として、行政に伝える扱いとする。</p>
		<p>我が街意識を醸成させる、シビック・プライドを喚起する政策を加え、区民が行動し我が街を作り上げ、引き継いでいくという基本構想にしていきたい。</p> <p>「平和」について章立てをして欲しい。杉並区の歴史として「原水爆禁止署名運動」と過去のもののように記されているが、いままさに世界がこの問題を正面から掲げて真剣に取り組もうとしている。発祥の地杉並区だからこそ、「平和」の運動や教育を位置付けていただきたい。</p>	<p>・参考意見として取り扱う（答申案の修正は行わない）。</p>